

治療にあたっての注意事項

皮膚の若返り、シワ、毛穴の拡大、ニキビの痕、ホクロ の治療前の注意事項

- メーキャップはすべて落すこと。
- 治療部位を清潔にし、剃毛すること。
- 麻酔等は不要である。
- 治療前にビタミンCローション等を塗布することがある。
- 術前に写真を撮る事がある。
- 眼球を保護する為に、眼保護器を使用します。

治療法

- 顔は治療する部位を4つの部位に分ける。頸部を治療する場合も4-5の部位に分けて治療します。一度に一部位を治療する。ある1部位の治療終了後、同じ方法で、次の部位の治療を開始する。
- ハンドピースを治療する皮膚の表面から約2cm上に保持しながら治療部位上を全体に渡って連続的に移動させる。パルスを均一に分布させる為に垂直方向に少し移動させながら、ハンドピースの左右移動を反復的におこなう。
- 口附近を治療する場合、歯がレーザー光線に照射されるのを避ける為に、治療中は口を開かない様に患者に指示する。
- 治療中は皮膚が少し暖まっていると感じる程度、患者はこの感じに慣れると、治療がさほど不快でないと感じます。もしも不快を感じる(熱い、痛い、等感じる)場合は、担当医師に言って下さい。

治療後

- 特別なケアは通常不要である。
- 一般に2~6週間の治療間隔で合計4~8回治療を行なう。
- 治療後はすぐにメーキャップができます。
- 治療後は症例によってより効果を得る為に、ビタミンC誘導体の使用や(ジェル、クリーム、ローション)やハイドロキノンやレチノール軟膏等が処方されることがあります。

レーザー効果

- 皮膚表面でのレーザー光線の錯乱(反射)によって角質や産毛が除去され、術後、直ぐに、皮膚がさらさらした感じになる為。
- 皮膚に軽い炎症を起こさせ、それによって、炎症性の細胞を誘発しコラーゲンの生産を増やす。その結果、シワや毛穴の拡大、ニキビの痕、赤ら顔等が改善されます。
- フェースリフト効果：表情筋への熱作用の効果であり、数回繰り返すことが大切です。作用機序としては、酸化ヘモグロビン、メラニン、水分への影響により、コラーゲンの増生が起こる。
- 頸、腕、足、腰部や尻の皮膚は、多少滑らかになったという印象を受ける事が多いが、妊娠線や肉割れ線の治療は難しいと思われます。

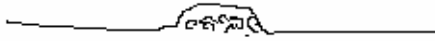
ホクロ

術前の注意事項

- メーキャップはすべて落すこと。
- 治療部位を清潔にし、剃毛すること。
- 術前に写真を撮る事があります。
- ジェルを使用します。

治療法

- レーザー照射か外科的に手術するかが決定されます。
- レーザー照射の場合は、ホクロの大きさ、濃さ、厚さ等により、出力が決定され照射します。
- 外科的手術の場合は、手術日が再度決定される。



ホクロ断面図



ダイオードレーザーを使用して
ホクロの上を加圧照射した。



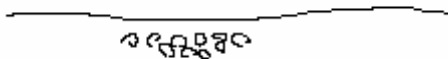
照射後



約 1 ~ 4 週間後皮膚が再生
します。
この状態のままでメラニン
色素が残っている場合は更
に治療をする。

照射間隔は 1 ヶ月位です。 3mm.以上のホクロの照射後はガーゼやバンドエイド
を 3 日間当てておき、3 日後ガーゼを取るとかさぶたがついてくるので、かさぶ
たが無くなるまで軟膏を塗布して下さい。

(3mm 以下のホクロはガーゼを当てません。)



ダイオードレーザー照射



メラニン色素は蒸散して膨らみ、徐々に熱が下がって
いき腫れが引いていきます。よりよい効果を得るた
め、照射後軟膏を処方される事があります。

(ビタミンC誘導体 ハイドロキノン軟膏 レチノー
ル軟膏等



膨らんだ痕には滲出液や血液成分の溶解物がたまり
腫れている



1 週間 ~ 10 日後、体自身の修復作用により元
に戻ります。

シミ

術前の注意事項

メーキャップはすべて落すこと。
治療部位を清潔にし、剃毛すること。
ジェルを使用します。患部を消毒する
術前に写真を撮っておくこと。

治療法

ダイオードレーザーを使用します。脱毛の照射方法とは異なる方法で照射します。

治療後

照射後は消毒冷却を行ない、軟膏を塗布します。照射間隔は通常 4～8 週間隔です。治療後はより良い効果を得る為に、ビタミン C 誘導体、ハイドロキノン、レチノール等の軟膏を処方される事があります。

シミ治療の後に、2 週間くらいすると色素が一時濃くなるような事がありますが、通常は 3～4 ヶ月後くらいから徐々に薄くなっていく、半年から 1 年でほとんどわからなくなります。日焼けはなるべく避けて下さい。その場合は日焼け止めクリームを使用してください。

普通のシミ（日焼け後のシミ、老人斑）そばかす（雀卵斑）は通常 2～4 回くらいで終了します。大田母斑、蒙古斑、扁平母斑の場合は通常 3～10 回位の回数がかかります。レーザー治療の効果の無いものは一般的に肝斑や扁平母斑等があります。

青あざ（大田母斑）は 1 回目治療後に以前より色が濃くなる例が多いのですが普通 1 年～2 年経過すると通常半分以下にまで薄くなります。赤あざ（血管腫）は皮膚が赤黒い血の塊が 2 週間くらい残る事があります。汗管腫や毛孔性苔癬はあまり効果がありませんが、中には効果の良いものもあります。

治療後は通常 4～6 週間間隔

〔 〕血管病変

術前の注意事項

治療部位のメーキャップはすべてきれいに落す。

治療部位を清潔にし、剃毛する。

術前に写真撮影する。

照射部位のテスト治療が必要。少なくとも 10 分間観察する。

眼の周囲の治療は目の保護器具を使用し皮膚を眼から離れる方向に引っ張って眼窩縁からの距離を大きくしてから照射する。眼窩縁外部の皮膚のみに適応する。

皮膚表面にうきでいて怒張している静脈の治療は、血管からの発熱による表皮損傷の可能性が増大する為に、フルエンスを下げ、冷却に注意しながら、治療を行なう必要がある。

治療法

透明なゲルを使用する。

ハンドピースを使用して治療すべき部位を少なくとも 1 秒間は予冷する。

レーザーパルスを適用する。2 - 3 の非重なりパルスを安全に適用する。シンプルパルス技法を使用するのがベストである。

血管からの熱が表皮まで伝わる為、ハンドピースをスライドさせて戻し、治療部位を少なくとも 1 秒間後冷する。

ハンドピースを次の部位に移動させ、
を反復する。

術後のケア

冷却する。

静脈は治療後、蕁麻疹様の反応をすることがあり、このような場合は、局所マイルドステロイド軟膏の適用である。通常は速やかに軽減する。

痂皮形成の部分は、抗生剤入り or 潤滑用クリームを使用する。

炎症後の色素沈着症は血管レーザー治療に対する一般的な応答である時間の経過と共に解消する傾向にある。

治療間隔は各治療の改善度によるが 6 週間以上あけて行なう。